



「投票に行こう」
走って呼びかけ
茨木の有権者
衆院選の投票率アップを
目指し、大阪府茨木市の有
権者が十七日、「投票呼び
かけマラソン」を開いた。
降りしきる雨の中、約十人
が参加し、「二十五日は衆
院選投票日」と書いたゼッ
ケンを付けて街を駆け抜け
た。写真。

同市園田町の会社員平野
正善さん(59)はマラソン仲
間が企画。体力に応じて
だれでも参加できるように三
十七日の四コースを設定
した。出発は午前十時。選
挙啓発のほりを持って市
民会館前を飛び出し、走り
ながらハンドマイクで「一
緒に投票に行きましょう」
と道行く人に訴えた。
平野さんは「自分たちの
街や暮らしを考える第一歩
として、選挙に行つて自ら
の意見を示してほしい」と
話していた



2000年
総選挙
最前線

初めの一步 ■ 脱・無関心へ

「6月25日は衆議院選挙
投票日 一人一人の一票で
イキイキ大阪」。こんなゼ
ッケンをつけた市民ランナ
ーが十七日、大阪府茨木市

(大阪九区)を駆け巡った
写真。市内のマラソン愛
好家が企画した「投票呼び
かけマラソン」で、土砂降
りの雨の中、午前十時十五
分にスタートした十五キロ
コースには八人が参加。夕方
にかけて三キロ、七キロ、十七
キロの三コースも走る。

実行委員の一人、平野正
善さん(59)は大手電機メー
カーの社員。四年前、環境
に関する国際規格を取得す
る企業向けのソフト販売担
当になった。講演や本で環
境問題を勉強し、「地球は
こんなに汚れているのか」
とびっくりした。

たまに登る六甲山や、河
川敷をランニングしている
安威川を、これ以上汚すま
いと思つた。環境の悪化
も、子どもの荒れも、政治
の腐敗も、市民の無関心が
一因ではないかと、わが身
を振り返って気付いた。「投
票は無関心から脱する初め
の一步です」と訴える。